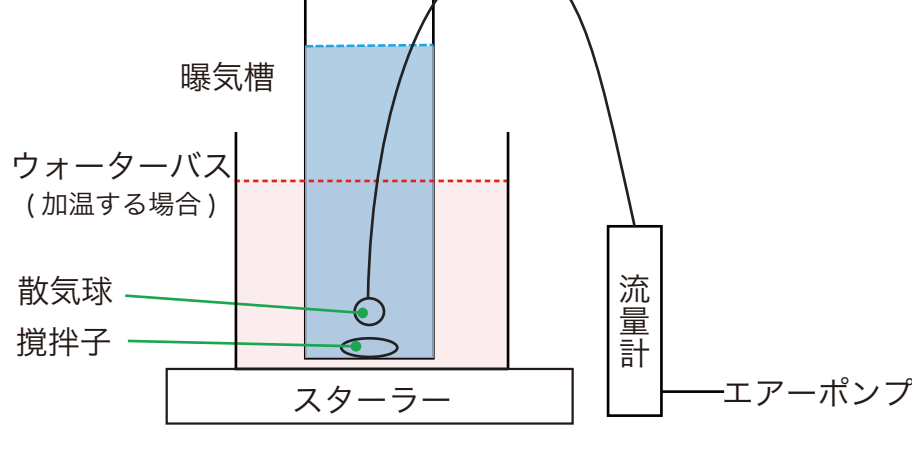


生物実験案内

好気

◆回分試験（担体、汚泥 [活性汚泥、硝化汚泥]）

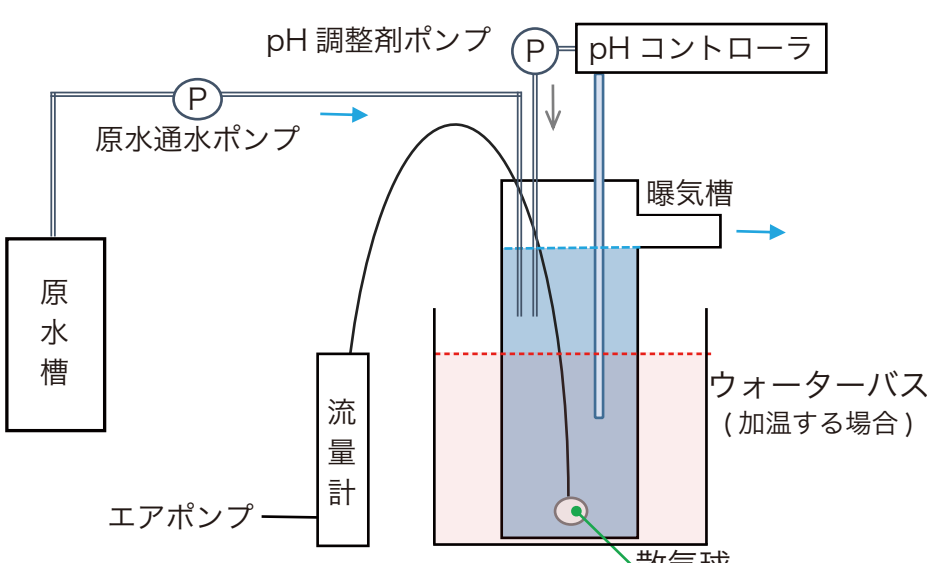
- ①処理対象排水の阻害性や生分解性の確認
↑試験時間内での到達水質（除去率）の確認も可能
- ②実機の汚泥の活性確認…実機汚泥の採取が必須



- ※汚泥濃度や担体充填量は、ある程度決まった条件で試験を実施
- ※サンプリング頻度：0,1,2,4,6,24,48hr など（最長 72hr）
- ※弊社内で馴養している汚泥が無い場合、①でも実機汚泥を使用するのが現実的

◆連続通水試験（担体）

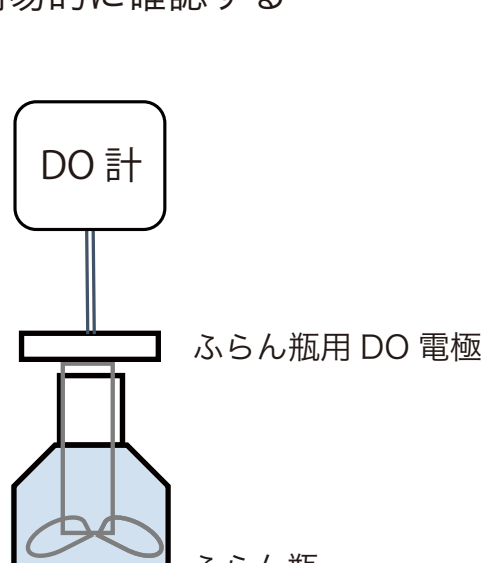
一定期間稼働させることで、菌体が処理対象排水に馴れた状態での生分解性や到達水質がわかる



- ※ある条件での到達水質がわかったら、さらに原水などの条件を変えて試験を継続することが多い
- ※サンプリング頻度：1回/日

◆酸素吸収速度試験

（汚泥 [活性汚泥、硝化汚泥]）排水や、生物処理槽に流入する薬剤の阻害性を簡易的に確認する



- 汚泥 + 試験水※
- ※排水の阻害性確認の場合：処理対象排水
- ※薬剤の阻害性確認の場合：対象薬剤添加の人工排水
- 曝気を止め、一定時間ごとにDO測定
- 阻害性が高いほど、酸素濃度減少速度が遅い
- 排水や薬剤の添加率を変えて比較

○実際の試験器具例○

曝気槽



通水ポンプ



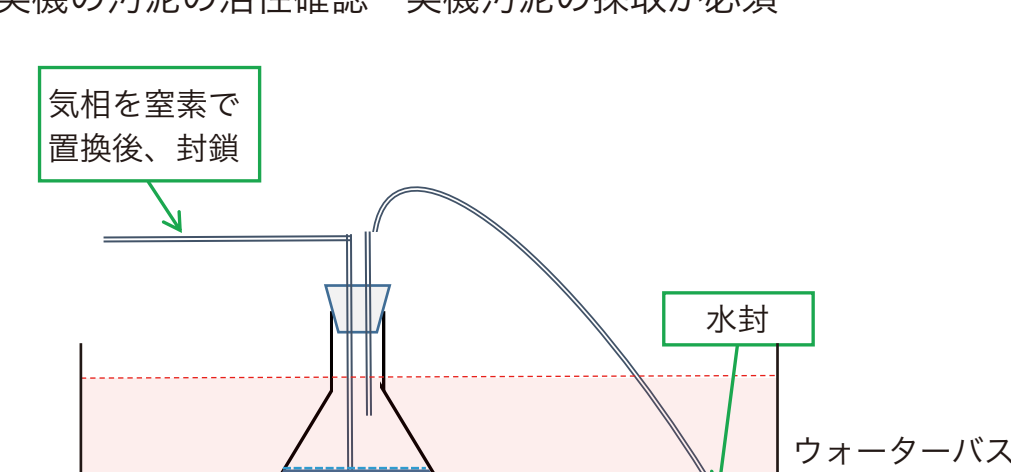
散気球～流量計～エアポンプ



嫌気

◆回分試験（担体、汚泥 [活性汚泥、硝化汚泥]）

- ①処理対象排水の阻害性や生分解性の確認
↑試験時間内での到達水質（除去率）の確認も可能
- ②実機の汚泥の活性確認…実機汚泥の採取が必須



- ※汚泥濃度はある程度決まった条件で試験を実施
- ※サンプリング頻度：開始時、終了時（最長 72hr）
- ※弊社内で馴養している汚泥が無い場合、①でも実機汚泥を使用するのが現実的

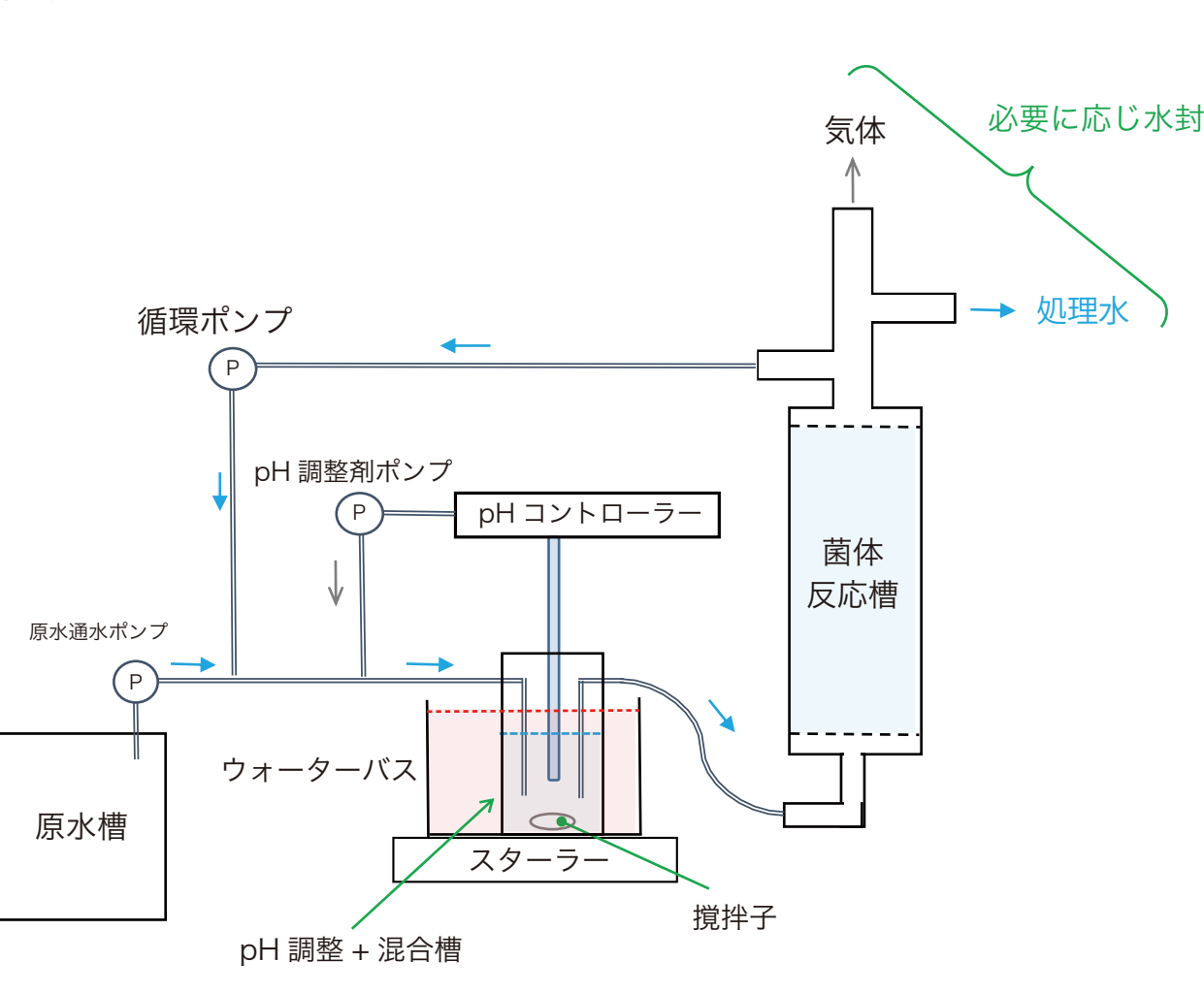
○実際の試験器具例○

曝気槽



◆連続試験

要相談



○実際の試験器具例○

